

# 佐賀西高だより

URL <https://www.education.saga.jp/hp/saganishikoukou/>

学校だより第141号  
令和8年3月16日  
佐賀西高等学校  
佐賀市城内一丁目4番25号  
電話番号(0952)24-4331  
発行・編集 広報研修部

## 第61回卒業証書授与式



令和8年2月27日(金)に同窓会入会式、2月28日(土)に第61回卒業証書授与式が行われ、265名の3年生が西高を巣立ちました。この学び舎で共に過ごした大切な思い出を胸に、新たな一步を踏み出し、夢を実現させてください。



### 送 辞

冬の厳しい寒さも和らぎ、春の知らせを聞きつけた新しい命が土から顔をのぞかせる季節となりました。

本日、佐賀西高校をご卒業される三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先ほど先輩方が晴れやかな面持ちで入場される姿を見て、先輩たちとの思い出や、別れへの実感が、自然と湧き上がってきました。この三年間、先輩方は、どのようなことを積み重ねてこられたのでしょうか。恩師と呼べる先生方との出会い、三年間ともに高めあい、ともに笑いあった友人との日々、学業はもちろん、学校行事や生徒会活動、部活動で過ごした時間など、一人ひとり、今、心に浮かぶことは様々だと思います。

私たちにとって先輩方と過ごした日々は、何物にも代えがたいものです。思い浮ぶのは、部活動の練習の時、厳しく指導してくださる一方で、学年の違いを感じることなく、楽しく笑い合えた先輩の姿。また、西高祭の時には、生徒全員にとって最高の思い出になるようにと、様々な役割・立場を担って、成功に導いてくださいました。きっと、私たちには見えないところで葛藤や困難も抱えていらっやったことでしょう。それでも、私たちに見せる背中はずっと輝いていて、私たちの目に映る先輩方は、頼れる存在、目標、希望でした。

先輩方と、この佐賀西高校で時間を共にできたことを誇りに思います。先輩方が紡いできたこの素晴らしい佐賀西高校を、歴史と伝統を大切にしながら、次は私たちが後輩に誇れるような姿で繋いでいきたいと思っています。

ここで僭越ながら、未来へと旅立たれる先輩方に言葉を贈らせていただきます。「Life is tough, not so bad.」これは、私の尊敬する方から教えてもらった言葉です。人生は、多くの困難なことがつきもので、時にはくじけそうになることもあるかもしれない。でもいつか困難を乗り越え、笑える日が来る。人生そう捨てたものではない。そんなメッセージが込められています。先輩方も、もし高い壁にぶつかったとしても、希望をもって挑戦し続けてください。先輩方ならいつか必ず、その壁を乗り越える時が来ます。そして、経験したすべてを、先輩方の輝きの源にできるはずです。

最後になりますが、卒業生の皆さまのご多幸と、さらなるご活躍を願い、感謝を添えて送辞の言葉とさせていただきます。

令和8年 2月28日 在校生代表 仮屋 沙香

## 答 辞

桜の花が咲き始めた今日の良き日に、本日は、私たち二六五名のために、このような厳粛かつ盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。卒業生を代表して深く感謝申し上げます。

二〇二三年、四月。私たちは初めての高校生活への期待と、少しの不安を抱えてこの佐賀西高校に入学しました。最初は、慣れない授業や部活動に戸惑い、緊張のあまり疲れ果ててしまうこともしばしばでした。しかし、新たな仲間に出会い、切磋琢磨しながらともに学びを深めていくうちに、学校生活に楽しさと充実感を感じられるようになりました。高校生活での最初の衝撃は、唐津での宿泊研修でした。コロナ禍の中学校生活は、卒業までほとんどマスク生活でした。そんな私たちにとって、大人数で泊まって学習するというのはほぼ初めての経験でした。唐津研修中のさまざまな活動の中でも特に校歌クラスマッチが印象に残っています。クラスでよりよい歌にするために、皆で意見を交換しながら練習を重ねました。この活動を通して、クラスメイトとの距離が縮まったように感じました。最大の学校行事である西高祭では、私は放送部として進行や撮影などの裏方の仕事をするのが多く、生き生きと活動するみんなの姿を見てきました。西高祭の成功を目指し、自分の役割を果たすのはもちろんのこと、それぞれの仕事をつなぐために積極的にコミュニケーションを取る皆の姿が印象的でした。私自身は、それまでは他者と積極的に関わることを苦手としていました。しかし、他者と協働して一つの物を作り上げるためには、勇気を出して思ったことを率直に伝えることが必要だと学びました。この経験の中で得た学びは、今の自分を作り上げ、生きる上での指針となっています。私たちは、高校生活のさまざまな経験を通して、自分の軸となるものを作り上げてきました。振り返ってみると、毎日の授業や友人と過ごした休み時間なども含めて、佐賀西高校でのすべての日々がとても貴重なものだったと改めて実感しています。このような充実した時間を過ごし、今日のこの日を迎えることができましたのも、多くの方々の支えのおかげです。本当に心から感謝しています。

先生方へ。日々の授業を始め、部活動、進路指導に至るまで、先生方は様々な形で私たちを支えてくださいました。どの教科も、先生方の工夫ある授業で楽しく学ぶことができました。これからも、この佐賀西高校で学んだことを生かし、さらに深めながら、夢に向かって努力を続けていこうと思います。三年間本当にありがとうございました。

家族へ。誰よりも私たちのことを想い、大きな愛で包んでくれた家族。不安でたまらなかった時も、そのあたたかな眼差しはいつも私たちを支えてくれました。十八年間もの間、毎日私たちをあらゆる面でサポートしてくれた家族には、言葉にならない感謝の思いでいっぱいです。本当にお世話になりました。今後も私たちの歩みを優しく見守っていただけますよう、よろしく願います。

在校生の皆さんへ。生徒会活動などを通して、皆さんと交流した時間は忘れられないものになりました。何事にも真摯に取り組む、日々成長していく皆さんの姿から、私たちも大変刺激を受けました。これからも、私たちは皆さんの活躍をそれぞれの場所から応援しています。

ともに卒業するみなさんへ。勉強でも部活動でも、皆さんという大切な仲間と苦楽を共にした思い出は、一生の宝物になりました。これから私たちは別々の道に進み、一人ひとり異なる苦難に直面するでしょう。しかし、私たちにはこの佐賀西高校で得たかけがえのない経験があります。自分を信じて努力を続ければ、きっとこの激動する広い世界でも、力強く羽ばたいてゆけるに違いありません。

現代社会では、科学技術がめざましい発展を遂げています。生成AIやSNSを始めとして簡単に使える技術が身近にあふれています。しかし、そうした技術は私たち人間に恩恵をもたらす一方で、時に人を傷つける道具にもなりえる、いわば諸刃の剣です。このような時代だからこそ、私たち人間が、それらの技術をどのように活用するべきかを問い続けることが大切だと思います。よりよい未来を作るためにどうすべきなのかを自ら考え続けていきたいです。学校生活において、さまざまな壁を乗り越えて培ってきた力は、この複雑な社会をしなやかにたくましく生きていく支えになるはずです。

最後になりましたが、ご臨席くださいました来賓の皆様、校長先生をはじめ諸先生方、保護者の皆様、そして在校生の皆さん、本当にありがとうございました。私たちはこの佐賀西高校で学び、卒業できることを誇りに思います。これまでの経験を糧にいつそう学びを深め、希望ある未来を創ってゆくために弛まぬ努力を続けることをここに固くお誓い申し上げますとともに、これからの佐賀西高校の益々の発展と、皆さまのご多幸を祈念致しまして、答辞といたします。

令和8年2月28日 卒業生代表 岡 ひかり